

平成29年度 学 校 目 標

高津養護学校

	視点	4年間の目標	1年間の目標	取り組みの内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	自立と社会参加を目指し、児童・生徒の障害の状態や発達段階に応じた小学部から高等部まで系統的・発展的な指導内容を編成する。	①各学部の教育課程のつながりと指導の系統性、発展性のある教育内容系統表の項目別段階表を作成する。	①教育推進グループと支援連携グループで連携し校内の作業チームを組織し、教育内容系統表の第1案を基に2学期末を目処に第2案としての項目別段階表を作成し検証を進める。(H30完成目標)	①たかつの教育内容系統表の項目別段階表を整理・作成できたか。
			②「専門性推進チーム」を機能させ、研修の充実と「授業改善」の推進を図る。	②専門性推進チームや人材バンクを活用した「エントリー授業」の実践を展開することで、授業改善とタイムリーなテーマに沿った研修会の実施につなげる。	②専門性推進チームや人材バンクの活用をおとした授業支援体制の整備により、研修の充実と授業改善が推進できたか。
2	児童・ 生徒指導・支援	児童・生徒の教育的ニーズに応じた指導・支援を全職員で組織的に実践する。	①「たかつアセスメントプログラム」を教育内容系統表と連動させる。	①相談支援係を中心として、夏季休業中に学部単位でのアセスメント検討会を実施し、適切な指導や支援につなげる。	①教育内容系統表と連動した「たかつアセスメントプログラム」を示すことができたか。
			②指導グループの枠にとられない、チーム支援を意識した様々なタイプのケース会議を行う。	②ケース会議を実践する中で、そのタイプを分類・整理するとともに、効果的な予防的ケース会議を実施する。	②指導グループの枠にとられない効果的な予防的ケース会議を計画的に実施できたか。
3	進路指導・支援	生涯にわたる生活の充実をめざし、「よりよく生きる力を育むこと」・「キャリア教育の推進」について、小学部から高等部へ貫した取組みを行う。	①本校でのQOL及び社会生活力の視点を日常的に意識する。	①社会生活力やQOLを日常的に意識し、日ごろの指導計画に盛り込んでいくとともに、学習会・研修会を実施する。	①本校でのQOL及び社会生活力の視点を日常的な指導案へ反映させ、教員が意識して授業に取り組むことができたか。
			②キャリア教育の視点で、高等部（本校・分教室）の職業やその他の授業・行事を見直す。	②分教室においてはキャリア教育の視点で職業以外の授業や行事についての検討を進める。本校においては、各作業班の内容をキャリア教育の視点で整理する。	②職業（作業学習）やそれ以外の授業・行事について、それぞれの目的を明確にし、次年度の教育課程に反映することができたか。
4	地域等との協働	インクルーシブ社会の実現をめざし、地域社会への障害の理解啓発を促す。	①パラスポーツなどを意識的に授業にも取り入れ、近隣の学校や地域の活動との協働を視野に入れ計画する。	①パラスポーツ等の推進を校内の授業の中で推進するとともに、地域と協働した活動の企画や地域活動への参加を計画的に実施する。	①新たな地域交流活動を展開し、特別支援学校としての役割（発信・相談活動）を果たせたか。
			②地域におけるネットワーク会議への効果的な参加の在り方を検討するとともに、インクルーシブ教育推進のための学校の役割を整理する。	②地域のネットワーク会議への参加を精選し、得た情報を定期的に職員で共有するために、企画会議や情報ポータルサイト等の活用を検討する。	②地域のネットワーク会議に効果的に参加するとともに、地域社会における学校の役割を整理できたか。
5	学校運営 学校管理	・安全で安心な指導体制、管理体制を構築する。 ・教職員の実践力と専門性の向上を図る。	①学校運営組織の改善を図る。	①通学支援やインクル推進などの新規係における取り組み内容について、適宜企画会議で進捗状況を確認し、必要に応じて改善を図る。	①新規係における取り組み内容が整理され、円滑に機能したか。
			②私費会計システムの円滑な移行と運用の定着を図る。	②新たなマニュアルを活用しながら、スリム化の検証を進める。	②新システムに即したスリム化により、事故のない適正な私費の執行ができたか。